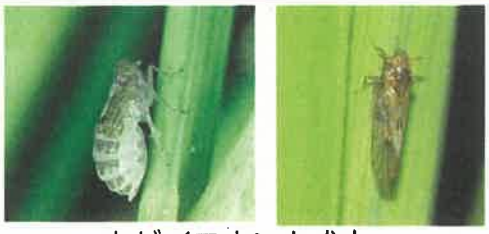
水稲栽培におけるトビイロウンカの防除対策

トビイロウンカとは

- ○主に6月～7月の間に大陸から風にのって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- ○飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、イネの株元で急激に増殖する
- ○イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- ○気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある



トビイロウンカ成虫
（左：短翅型、右：長翅型）

被害ほ場
（坪枯れ）

地域の発生情報を集め、ほ場をよく観察しましょう

○情報のチェック

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室が発表する**発生予察情報**などの病害虫の防除に関する情報を**こまめに確認**し、**発生状況を把握**しましょう

あいち病害虫情報　https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html

○ほ場の見回り

株元のトビイロウンカの増殖を見逃さないように**ほ場をこまめに見回り**ましょう

被害の発生が懸念される地域では「二段構えの防除対策」を！

1 育苗期の防除

トビイロウンカに効果の高い薬剤を選択して**箱施用**しましょう

2 本田での防除

① 基幹防除

多くの地域でいもち病やカメムシ等の防除と併せて出穂期前後に行われていますが、**トビイロウンカに効果の高い薬剤**による**薬剤散布を実施**しましょう

また、本田防除後も発生状況を確認するため、ほ場の観察を行いましょう

② 追加防除

情報のチェックやほ場の見回りにより、**トビイロウンカの発生状況に応じた臨機の防除を実施**しましょう

出穂期以降に防除が必要な場合には、トビイロウンカの生息する**株元まで薬剤が十分に届くように**、使用する薬剤、散布機を選択しましょう

なお、株元への薬剤散布ができない場合には**出穂前の粒剤散布を行いましょう**

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります
農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室等が発表する情報に基づき、トビイロウンカに対して、より効果の高い防除を実施してください

愛　知　県